

健康と光線

あなたの常識は

骨を強靱にするにはカルシウムが大切だ、と言うと、まず例外なく同意してくれまう。日常生活でカルシウムを多めにとるようにしている、と言う人も沢山います。しかしカルシウムについて少し突っ込んだ質問をすると、答えは人によってマチマチです。もし肝心なことが抜けていれば、その人は折角の努力も水の泡になってしまいます。

ところで、本紙を購読戴いている皆さんは別にして、皆さんの友人のカルシウムに関する常識を、不躰ですが次の設問で試して下さい。存外、正解は少ないかも知れません。

(一) 日本人のカルシウム摂取量について

(1) 現在、平均的にとっているカルシウムの量は著しく不足している。

(2) 昔と比べても、今の人はカルシウムをとっていない。

(3) 要するに、現代人の骨が脆いのはカルシウムのとり方が少ないからで、カルシウムを多くとれば多く吸収され骨も頑丈になる。

(二) カルシウムの吸収に必要なビタミンDについて

(1) ビタミンDはバランスのとれた食事で十分補えるから心配ない。

(2) 母乳にもビタミンDは十分にある。

(三) 骨粗鬆症について

(1) 骨粗鬆症は老化現象だから一度起こせば治らない。

(2) 否、骨粗鬆症はカルシウム不足だからカルシウムをとれば治る。

既にお分かりのことと思いますが答えは全部×です。

増加の一途を辿る骨粗鬆症

厚生省の国民栄養調査による

骨は晩秋から春先に脆くなる

紫外線の季節変動が骨粗鬆症に及ぼす影響

サナモア中央診療所
医学博士

宇都宮

光明

日本人は最もカルシウムの豊富な食事をしている、と言っても過言ではありません。その上、最近ではカルシウムを添加した食品やカルシウム錠まで利用されています。一方、カルシウム摂取量に関する研究報告を見ると、現在の平均摂取量が不足はないと考えて大きな誤りのないことが明らかにされています。

然るに現実には、寝たきり老人の主要な原因の骨粗鬆症は増え

続けており、既に四百万人から五百万人と予測され、殊に70歳以上の女性では50%以上が罹病していると推定されています。これは人口の高齢化だけの問題ではなく、カルシウムをとることに熱心であっても、カルシウムの吸収、利用について、無頓着なことが係わっています。

カルシウムを吸収し、利用するのに、ビタミンDが必要不可欠なことを思い出してください。このビタミンDは、通常の食事には含まれていないので、光線(紫外線)を浴びて補うしかありませんが、生成能は加齢によって大幅に低下し、70歳を越すと半分に落ちてしまいます。そのためビタミンD不足に一層拍車がかかってしまい、カルシウムを吸収することも利用することも出来なくなり、骨粗鬆症を進行させます。しかし残念なことに、これらの事実は思いのほか知られていません。

光線の作用を最も端的に示す例として、カルシウムを十分に含んでいる母乳を飲んで育つ乳児に日光浴をさせないとクル病になる事実がありますが、同じ注意は老若男女を問わず、すべての人に必要なことを胆に銘じ

てください。これが骨粗鬆症を防ぐコツを体得する近道です。

骨粗鬆症を治す冬の光線浴

夏は日差しが強く、時には迷惑な程です。1日紫外線量は3月から増え始め、5月に最高になり、6、7、8月と高値が続きますので、一般的にビタミンDは不足しません。しかし秋になると、紫外線量は9、10月と順次減少し、11、12、1、2月には夏の三分の一から四分の一になる上、厚着になりますので、意図的に光線を浴びるように努めないとビタミンDは底を突いてしまいます。

実際、四季の明瞭な国で季節別に骨の状況を調べると、年齢の如何を問わず、殆ど全ての人で、必ず、冬から春に骨は脆くなります。この調査結果は光線の重要性を明確に示しており、少なくともカルシウム摂取量の多寡では説明できないことです。

即ち、骨粗鬆症を治す要諦は、冬から春にビタミンD不足に陥らないようにすることです。この間、サナモアを最低でも30分60分以上、週に3、4回活用してビタミンDを補うのは有効な手段になります。さすれば、カルシウムを吸収し、利用する準備が万端整います。

発行所

〒153
東京都目黒区目黒
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行
会費年500円
電話 東京(03)
3793-5281
3712-5322

「柿」

宇都宮義真撮影



讃光譜



瀉血と輸血

しゃけつ

十八世紀の中頃から十九世紀の前半にかけて、西欧の医師は治療のため勇猛果敢に患者の血を抜いた。いわゆる瀉血療法が全盛を極めたのである。然るに今は、患者から血を取る代わりに患者に血を入れている。何れの場合も、もしも患者(素人)が治療法に異議を唱えようものなら、医師は大いに憤るに相違ない。医師は自分の専門的意見に疑問を持たれることを極端に嫌うからである。無論、医師が専門分野で素人より多くのことを知っていて当たり前だが、中には相当見当違いの知識もあったようだ。

医師の役目は病める人々を救うことにあるが、救う代わりに危険にさらしたこともあったのである。

ところで今でも、医学の進歩を物語るかの如く、毎日のように新薬や新療法が発表されているが、数年ならずして見る影もないものも少なくない。その理由の一端は、医師が自然治癒力を軽んじ、病名や病因(外因)にこだわら過ぎるためである。

細菌と抗生物質の

いたちごっこ

現代医学の最も有力な治療手段の一つに、細菌等の病原微生物によって起きる感染症に対する抗生物質療法がある。もとより細菌の存在は病気の原因に違いないが、感染と発病は別物であり、もっと根本的な原因は細菌に侵され易い身体にある。従って、如何に抗生物質といえ、抵抗力のない人には無価値である。反面、抵抗力のある人は、仮に発病しても簡単に治るのである。

また、抗生物質は始めの内は細菌(感染症)の治療に効果があるが、その内に次から次と抗生物質に対する抵抗力を持つ新しい細菌が現れて、抗生物質の効かない強い細菌が残ってしまう。そこでまた、新しい抗生物質が必要になる。このように感染症の治療で細菌のような外因だけを目標にする限り、細菌と抗生物質の隙限ないいたちごっこが続くであろう。これに対し、身体の抵抗力等の内因を目標にする治療法は、何時の時代も変わることはない。

永遠の光線療法

光線療法が、太陽が唯一の光源であった太古から、いろいろな人工光線を応用する現在に至るまで、綿々と続いているのは、太陽の原理の応用だからである。即ち、地球上の生物は、太陽の恩恵なしに生きられないという

治療法にも 寿命がある

宇都宮 義真

厳然たる事実こそ、光線療法の永続性を立証する有力な理由である。太陽と生物との密接な関係がなくならない限り、時代によって多少の変遷はあるとしても、将来永久に光線療法が価値を失うことはないことを確信する。言い換えるなら、光線療法は自然治癒力や抵抗力のように身体の内にある能力を高めることを目標にしているからである。

しかし非常に残念なことだが、光線療法が民間療法の一分野として発達したこともあって、時に光線療法を知らずして非難中傷する心ない医師がある。医師にとって、ごく僅かしか訓練を受けていない者が、効果的な治療を行うと言うことは考えられないし、許せないことなのである。

サナモアについて

サナモアはカーボン灯である。カーボン灯は一見極めて原始的で而も素朴であるが、あらゆる人工光線の中で、太陽の原理を最も忠実に再現している。即ち、太陽と同じ裸火で連続したスペクトルを持つ光線を放射する唯一の機種である。またカーボンを取り替えることによって、幾種類もの光線が得られるのも特長の一つである。

病気に原因があればこそ結果がある。因果は必ず応報する。サナモアで病気になるなら丈夫な身体にしておこうではないか。

「健康と光線」

昭和35年7月5日発行

— 永遠の療法 —

昭和35年8月5日発行

— 医学の専門家 —

を要約した。

主人が脳出血で倒れる

平成二年の初春、主人は外出先から帰宅して座っていました。が、急に身体が左に傾き立ってなくなり、話かければ返事をしますが、目を開こうとしません。その日は何も食べていないので、飲み物を与えようとしたが受けつけませんでした。それでも光線をかけてくれとせがむので二台で照射しました。左半身が麻痺していることがはつきりして来ましたが、直ぐに懇意にしている先生の往診を請い、そのアドバイスで無理に説得して入院させました。その結果、脳出血と診断されて手術を受けることになったのです。

当時、主人は80歳でしたが、この出来事を境にして、主人と私と二人三脚で闘病に明け暮れる生活が始まったのです。

私の看護日誌

サミチ 前田 療光線健康美容

低温火傷を負う

主人は脳外科で手術を受けましたが、幸いに頭ははつきりしていました。その後、リハビリが始まり、支えがあれば歩けるようになり、なおりハビリを続けると言われていました。光線療法をしたい本人の強い希望で、術後三ヶ月で退院しました。それから自宅では光線療法をしながらリハビリをしていましたが、その年の冬、不自由な方の左足の甲にアンカによる低温火傷を作ってしまったのです。主治医の先生が手を尽くして治療して下さっても、良くなったり悪くなったり繰り返しておりました。

平成三年の夏に、リハビリのため専門病院に三ヶ月間の予定で再度入院することになりました。そこでも色々手を尽くして下さいましたが、一向に良くなりません。この病院も、本人の希望で、三ヶ月の予定を一週間繰り上げて退院させて貰いました。

全身湿疹に気付く

退院して帰宅した日、ゆっくり我が家の風呂に入ったのですが、全身に湿疹が出ていることに気付きました。それまで見落

としていたのは、顔が無事だったためです。痒い湿疹と左足の潰瘍の治療のため、肝心の脳出血の後遺症の治療はそこそこになり勝ちでしたが、退院する時に担当医から、脳に関する検査には悪い所見はないと聞いていたので、まあまあ安心していました。

とにかく、全身の湿疹と左足の潰瘍の治療に全力投球するしかないという覚悟を決めました。光線療法は一台で、時間の許す限りやりました。カーボン、A、B、C、Dを適宜使いましたが、合計すると四時間から八時間にもなりました。その間、本人は気持ち良そうに眠っていて、疲れを訴えることはありません。

湿疹の方は、一ヶ月目頃には範囲が縮小し、痒みが大分楽になり、夜中に呼ばれなくなりました。で少々気楽になりましたが、低温火傷により左足の潰瘍は中々良くなりません。主治医の先生も心底から心配努力して下さいましたが、「麻痺した方は治りにくいのですよ」、と言われてしまいました。

気長に看護

私は主人が一日も早く治って欲しい気持ちだけで頑張ってきたが、本人の甘えに乗って

食べ物や飲み物で失敗し、良いと思ったら悪くなるの繰り返しで、ストレスも溜ったようです。そのせいか、左肩から左上肢にかけて痛んだり、原因不明の急な腹痛に苦しめられたりしました。そんな時、主治医の先生から、「介抱する人が駄目になったら大変なことになりますよ」と注意され、ふとこれからは焦ることなく気長に看護しようと考え方を変えたら、張りつめていた心が何となく楽な気分になりました。

体質改善を

目指して

私は地元の療術師会の役員をしています。その研修会で親しくしている先生に主人の病状について話したら、「足の潰瘍の治療には良いかも知れませんよ」とゴールド・スーパーストとエネルギー水を送ってくれました。それで光線照射後、教えられた通りに湿布し包帯で巻いておきましたら段々良くなってきました。

私は今年の三月、親戚に不幸があつて、五、六日留守にしました。帰宅してみたら、またまたこれまでの努力が水泡に帰しているではありませんか。家の者に悔やみ事を言いながら、始

めからやり直しの気持ちで治療開始です。今度は早めに良くなるので、希望に燃えて頑張りました。

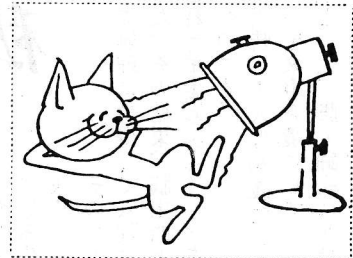
六月には、湿疹は殆ど全快と言える状態になりました。足の潰瘍も七月末頃より目に見えて快方に向かい、八月中頃は湿布や包帯が不用になりました。今はほっとした日が続いています。まだまだまだ心配です。

ずっとお世話になっている主治医の先生が足を見て、「おお、ずっと良くなったね。光線はすばらしく効くね」と慰めて下さいましたが、まだ油断大敵です。これまでも食べ物、飲み物で失敗を繰り返していますので、冷たいけど主人の甘えには乗らない決心をして頑張ります。しかし最近では、時々甘えに乗っても大して悪化しないようになりました。

本当に体質を改善するのに何年かかるか、看護人の責任を痛感しています。看護人も自分自身の健康にも留意して、光線照射に余念がありません。思い返すと、光線療法を知って四十年、長いようですが短いように感じます。これからも光線療法と益々仲良くしなければと、光線器を掃除する度に感謝しております。

福岡県春日市

TEL092-581-2039



一治験例報告一

☆左足首の捻挫

症例 17歳 男性 高校生

症状 兄一人と日帰り登山に行った帰り道で、滑って転び左足首を捻挫した。大学生の次兄が、約一年前に親友の捻挫が光線療法で極めて短期間に完全に治癒したのを目撃していたので、弟を説き伏せ肩と腕で支えながら来所した。当の本人はクラブ(サッカー部)の顧問の先生から、捻挫の応急手当は冷湿布をして固定することと教えられていたもので、兄の言うことでも中々納得しなかったが、有無を言わせない説得に負けて渋々やって来たと言った様子であった。

来所した時には、左足首は踝(くるぶし)が見分けられないほど腫れており、軽く触れただけで、「痛っ!」と小声で叫んで手を払いのけた。

療法経過 患部には、同時に二台の光線治療器を使って二方向から照射した。最初はBBカー

ボンで照射したが、50分経過する頃から、腫れがかなり引いてきて手で触っても余り痛がらなくなった。更にカーボンをAとBの組み合わせに変えて、50分照射を続けた。腫れは僅かに残っていたが皮膚に皺が出てきて、軽く手で押さえても痛くないと言った。顔つきもずっと明るくなり、帰りは兄の手を借りることもなく一人で歩いて行った。

翌日からの治療は、夏休中だったので、朝、昼、晩と日に三回、A Bカーボンで、患部に30分、足裏10分照射するように指示した。

患者は捻挫して三日目から大受験の夏期講習に出席したが、足のことを全く意識しないので勉強できたと言っていた。

神戸市 ウエノ光線療研
上野 健太郎氏報告
TEL078-1331-1358

☆ヘルペス

症例(1) 53歳 女性 神戸医大職員

症状 二年前に右顔面のヘルペスに罹病し治療したが思わしくなく、以来、後遺症の神経痛に苦しんでいた。

来所時、顔が少々黒ずみ、右目の周囲から頬に激しい痛みがあり、風の日にはハンカチで顔を押さえて痛みを我慢するほどであった。加えて、ひどい腰痛を訴えていた。

☆脳挫傷後遺症

症例 30歳 男性 会社員

症状 患者は昭和58年、28歳の時に交通事故に遭い、病院で頭部外傷による脳挫傷と診断されて入院した。しかし、入院加療をしたにも拘らず、後遺症の運動障害や言語障害は思ったほど回復せず、二年後の昭和60年1月30歳の時に、これ以上の改善は難しいと宣告されて退院した。その頃、知人の女性に試しに光線療法をして見たらと奨められ、昭和60年2月20日に来所した。なお頭部の手術は受けていない。

来所時、患者はたどたどしい足取りで引きずるようにビッコを引いて歩き言葉もややもつていた。患者の言によれば、殊に手足のバランスのとれた細かい動作が思うように出来なためイライラするとのことであった。

療法経過 BCカーボンで患部(二号集光器) 20分、ABカーボンで腹、腰、背中、各10分、左右腎臓各20分、足裏30分、ふくらはぎ、膝、後頭部(一号集光器)、各10分、毎日照射した結果、三ヶ月で全治、現在職務に励んでいる。

症例(2) 50歳 女性

症状 みずおちから右上腹部にかけてヘルペスに罹病、治療したが日増しに悪化し、皮膚は湿りけを帯び、甚だしく痛んだ。来所したのは発症して四週間目

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」にもとも愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンには、「光線療法学」をセッとしたり、サナモアA B C Dと効果が同じという根拠もないような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので異々もご注意ください。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています)

東京光線療法研究所

療法経過

カーボンはAとBを組み合わせ、二台の光線治療器を用いて二灯照射した。照射部位ならびに時間は側臥位で尻と顔面に10分、腰と膝に10分、腹と足裏に10分、後頭部に10分、仰臥位で左右の耳と首に各10分、左右の側腹部と膝の横に各5分である。

療法経過

BBカーボンで患部に20分、ABカーボンで再度患部に20分、腹、腰、背中、膝、ふくらはぎ、各10分、足裏20分照射した。

一回の治療で患部は乾いてからからになり、二回の治療で見違えるほど奇麗になる。回復の速さに、患者の喜びようは口では言い表せられないほどであった。

神戸市 松元光線治療所
松元 浩士氏報告
TEL 078-1431-0934

治療を始めた当初は、一般状態は良くなったが、脳神経症状に限れば余り見るべき改善はなかった。しかし患者は諦めず、効果を期待して治療を続けた結果、それこそ薄紙を剥ぐようにであったが徐々に快方に向かったのである。

昭和62年も半ばを過ぎる頃には、患者は脳神経症状が改善したことをはっきり自覚出来るようになり、同年8月6日より自宅治療にした。以来、順調に経過し、現在、患者は37歳になるが、平成4年6月25日に来所した折には、正常人と同じ生活が出来る状態であり、後遺症を感じさせない。

本例は長期治療を要した難しい症例であったが、こうして喜びの日々を過ごせるのも努力の甲斐があったものと感謝している。

川崎市 東京光線治療院
海渡 一二三氏報告
TEL044-721-5067

地球環境

私たちを取り巻く地球環境には、動植物、大気、水、土などがあり、すべての生物に影響下に置いている。然るに人類は、地球の回復能力を超えた資源を浪費し、汚染物質を排出し、人工産物を撒き散らして、気

その3

光医学と地球環境

— オゾン層の破壊が人体に及ぼす影響と対応策 —

サナモア中央診療所 医学博士 宇都宮 光明

付いた時には地球環境はボロボロで、次世代の生存すら危ぶまれる状況を迎えているのである。

そのため地球の環境保護は国際的に強い関心を集めているが、光医学、光生物学の観点から、その影響が危

惧されているのがオゾン層破壊の問題である。

進行するオゾン層の破壊

地球を取り巻く大気には、対流圏と成層圏があるが、特に二万から三万メートルの成層圏は

成層圏オゾン層と呼ばれ、太陽が放射する電磁波の中で動植物の生態系に悪影響を及ぼす短波長の紫外線、即ち紫外線C（UV-Cと略）の全てと紫外線B（UV-Bと略）の大半を吸収するフィルターの役目をしている。

このオゾン層を、人類はフロンガスに代表される人工産物の微量ガスで破壊し、波長の短い紫外線（主としてUV-B）の地上に届く量を増やすという、かつて経験したことのない事態を引き起こしたのである。その上、規制を強化してフロンガスを全廃しても、フロンガスは殆ど分解されず寿命が極めて長い。そのため、当分の間、確実にオゾン層の破壊は進行する。仮に何の対策も取らずにフロンガスの使用を放置すれば、二十一世紀の後半にはオゾンの量は半分以下になり、地球の生態系に壊滅的な打撃を与えるという恐ろしい事態も予測されるのである。

一方、全ての動植物にとって太陽光線が必要なることに変わりはない。従って、オゾン層のこれ以上の破壊を防ぐ保護対策の強化に併せ、既にオゾン層の破壊によって増加することが明らかにされているUV-Bの人体に及ぼす影響と、太陽の恵みはその

まま享受しながら弊害は最小限に食い止める対応策を考えておくことは有意義なことである。

紫外線と皮膚紅斑

それまで衣服に覆われていた無防備の皮膚を夏の真昼の太陽の紫外線に曝すと、日焼けして皮膚が赤くなるが、これを紅斑と呼ぶ。紅斑の起こし方は人種によって異なり、白人で最も強く、次いで黄色人種、黒人の順で起こるが、通常は24時間前後で最も強い赤色になる。その後、漸次色が褪めるに連れて、3-4日後には色素沈着を残す。このように日焼けは、紅斑と色素沈着の二つの現象から成り立っている。

皮膚が赤くなる現象は、紫外線を浴びなくても、皮膚に炎症を起こした際にも見られるが、真皮の浅い層の血管が拡張し血流量が増した状態である。同様に、紫外線に当たっても皮膚に炎症（日光皮膚炎）を起こして赤くなるが、紫外線が皮膚にどのような変化を起こすのか、詳細は未だによく分かっていない。しかし最近になって、表皮細胞の遺伝子、即ちDNAの障害と修復の状態に関連すると考えら

れるようになった。

UVB、UVCによるDNA障害

皮膚の表皮細胞のDNA障害説を支持する一つの具体例は、人工光線を使って短時間で日焼けさせることを目的にした日焼けサロンで、地上に存在しないUV-Cを放射する紫外線灯を用いたことである。紫外線の中でUV-Cが皮膚に紅斑、引いては色素沈着を起こす作用が最も強いことは、人工的にUV-Cの波長域の紫外線を放射する紫外線灯が作られた直後から知られていた。

このように表皮細胞のDNAに対する障害作用が強いほど、紅斑を起こす作用が強いのである。因に、最近の研究によれば、オゾン層の破壊で地上に届く量が増えたUV-Bの紅斑を起こす強度を安全なUV-Aと比較すると、UV-BはUV-Aの五百倍から千倍の効果があるとされている。そのためオゾン層の破壊によるUV-Bの増加が、特に光線感受性の高い白人で高度のDNA障害を伴う急性皮膚障害を起こし、これが皮膚癌の原因になる可能性が論じられているのである。

光回復と皮膚防護層

先に紅斑はDNAの障害と修復の状態に関連すると述べたが、太陽光線の作用を総合して利用した場合には、DNA障害を修復する光回復酵素を活性化させる働きが、UV-Aや可視光線にあることが明らかにされている。即ち、UV-Bのみを単独で照射した場合と、光線のすべての波長を総合して照射した場合で比較すると、同程度の紅斑を作るのに後者は前者の4倍必要である。この結果DNAに生じた障害を速やかに修復すれば、紅斑、即ち皮膚障害を抑制できることを示している。

一方、光線に当たると、即座に皮膚に軽い色素沈着を認める。この現象はUV-Aまたは可視光線で起こり、即時黒化と呼ばれる。次いで、紅斑が消失する頃から目立つ遅発黒化があるが、これはUV-Bまたは大量のUV-Aで起きる。これらの現象を起こす詳細な機序は不明であるが、過剰な紫外線の作用を防ぐための皮膚防護層で、光線の皮膚障害を防いでいる。

このようにUV-BによるDNA障害をUV-Aまたは可視光線

が修復する光回復や、主としてUVBが過剰なUVBから身を護る皮膚防護層を形成する事実は、自然の仕組みが如何に人知を越えた靈妙なものであるかを教えている。

光老化とは、太陽光線によって皮膚に光線性弾力線維変性を起こすことで、誰にでもある老化現象であるが、特に皮膚科の医師は皮膚所見のみを重視することもあって、光老化の弊害を必要以上に強調する嫌いがある。本来、老化はすべての面で

避け得ないことであり、仮に光老化があるからと言って、太陽光線には極力当たるなど言うのなら、太陽光線は当たらなかつたらどうなるか、対象を置いた実験をした上で言うべきである。実験の結果は、クル病で多くの幼気な幼児を失った歴史を持ち出すまでもなく、人類の存亡すら危なくすることは一目瞭然たろう。単純な例え話をすれば、食べ物に発がん性を認めたと言っても、食べることを止めるのが不可能な様に、UVBに発がん性を認めても、明日から太陽光線と付き合わずに済むものではないのである。

話は飛ぶが、人類の祖先はアフリカの黒人で、その後に移り住んだ居住地の日照環境に合せ、光線を吸収し易いように長年月をかけて肌色が変わり、黄色人種や白色人種が生まれたという説がある。実際、白人が日照の弱い高緯度地帯に住み、黒人が日照の強い低緯度地帯に住んでいれば、光線の問題はずっと矮小化されたであろうが、交通機関の発達には人々の交流を容易にし、日ざしの強い所に移り住んだ白人の皮膚癌罹病率が上がり、逆に日ざしの弱い所に移り住んだ黒人の子供がクル病にかかり易くなったのである。

實際、紫外線と皮膚がんの関係を研究する切っ掛けになった。オーストラリアに移住した白人に皮膚癌が多発したのは、移住したことが大きく関わっているのであって、同一条件下でも原住民の皮膚がんは稀である。このように光線と皮膚癌の関連を論じる際、白人と私たち黄色人種や黒人の罹病率は大きく異なるのであるが、我が国では紫外線防止化粧品のセールの利用するためか、意図的に触れないようにしていると思えてならない。事実これまでの研究から白人との間で皮膚癌罹病率を比較すると、黄色人種は十分の一以

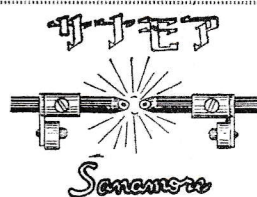
黒人は百分の一以下である。
人体への影響を最小限にする対応策

オゾン層の破壊、それに伴うUVBの増加が現実のものになった今日、求められる対応策を考えてみた。

(1) これ以上のオゾン層の破壊を許さないように規制を強化するだけでなく、フロンガスを除去したり不活性化する技術の研究を強力に促進する。

(2) 人類に太陽光線が絶対必要であることを認識した上で、UVBによる弊害を最小限に食い止めるには、一年と通して常に皮膚防護層を準備しておくことである。それにはUVBが弱く個体がDNAの障害を修復できる冬季から太陽光線に親しむように努めて、春から夏に備えるようにする。なお真夏の強過ぎる太陽に当たる際には、日傘やつばの広い帽子を被るのが最善の処置であって、紫外線防止化粧品品を使うより遥かに有益で害も少ないことを銘記されたい。

(3) 夏、皮膚防護層のない無防備の皮膚には日光を浴び過ぎないようにする。言い換えるなら、個体がDNAの障害を修復できる範囲を越さないようにすることである。



光線協會

趣
意
書
房

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。

サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七一五 三七一五 三七一五 三七一五

(本紙の無断転用を禁止します。)